

老いてもいきいきと 回想法講座修了式を開催

回想法講座「語らおう会！とめカフェ」修了証書授与式および講演会(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター主催)は12月20日、迫公民館で開かれました。

8月から始まった同講座は今回で修了。受講者全員に修了証書が手渡されました。講演会は、講師の東北大学教授の邑本俊亮氏が、回想法を生かした認知症予防への取り組みなどについて話しました。

名生村子さん(迫町小金丁)は「初めは難しい内容だと思っていましたが、自分の過去を振り返り友人と語りあう楽しいものでした。講座で得たことを忘れず、楽しく暮らしていきたい」と話していました。



講師の邑本氏は、認知症予防に必要なことを、映像や教材などを使い分かりやすく紹介。受講者からは大変好評でした。

全国の味自慢が競う 日本一はっとフェス開催

日本一はっとフェスティバルは12月6日、迫中江中央公園で開かれ、市内外から約2万7千人が訪れました。当日は、自慢の「はっと」を提供する35店舗が出店。訪れた人たちは、全国の「はっと」に舌鼓を打ちました。

今年は、姉妹都市の富山県入善町からPRマスコットキャラクター「ジャンボ〜ル3世」が友情出演し、会場を盛り上げました。購入者の割りばしによる投票で決まる「はっと大賞」には「海鮮はっと(塩味)」鮎信(登米市中田町)が選ばれました。渥美空斗君(米山町下小路)は「赤豚カレーはっとがおいしかったです。来年も来たいです」と話していました。



県内だけではなく、山形県や岐阜県などからも出展。登米市では味わえない珍しい「はっと」が並びました。

火災ない年未年始に 特別警戒防火指導を実施

市年末年始消防特別警戒(12月1日～1月9日)の一環とした防火指導は12月26日、イオンタウン佐沼とみやぎ生協加賀野店で開かれ、市民に防火意識の向上を呼びかけました。

年末年始の防火指導は、火を取り扱うことが多く、火災発生の危険性が高まる時季であることから、市消防本部で毎年実施。当日は、布施市長と消防関係者ら14人が「年末年始消防特別警戒中です。火の用心をお願いします」と声掛けをしました。両親と訪れた阿部高明くん(中田町本町畑中)は「火事は怖いので、お父さん、お母さんと一緒に気をつけます」と注意を誓いました。



消防関係者が、火気使用の注意喚起のリーフレットやエコパックなどを配り、老若男女を問わず火の用心を呼びかけました。

登米市の未来を語る 未来新聞コンクール開催

第8回子どもたちが考える登米市の未来新聞コンクール表彰式は12月6日、南方農村環境改善センターで開催されました。

コンクールには、小学生の部5校42作品、中学生の部4校21作品の応募があり、それぞれ最優秀賞、優秀賞、優良賞と審査員特別賞が選ばれました。

中学生の部で最優秀賞に選ばれた登米中1年2組「HDK本当にできる子」のメンバー野村桜花さんは「地域の伝統行事である秋まつりを未来につなげたいと思い、テーマに選びました。見やすく作るのが大変でした」と作成の苦労を話していました。



受賞全グループが作品を発表。風力発電所の建設や車椅子専用道路の設置など、自由な発想が数多く発表されました。

正しく使おう110番 甲子園準V球児1日署長

1月10日の「110番の日」に合わせ、仙台育英学園高野球部の佐藤将太君(迫町古宿出身)は1月9日、佐沼署の一日署長を務めました。

警察官姿の佐藤君は、佐沼署で笹原隆二署長から委嘱状を受け取ると「警察の助けを必要としている人の迷惑とならないよう、皆さんに正しく110番通報を使ってほしいです」と抱負を語りました。

午後2時からイオンタウン佐沼で110番の広報活動に参加。正しい110番の利用を訴えるポスターを作製した佐沼中生2人への表彰式や110番にまつわるクイズなどをして、一日署長の務めを果たしました。



夏の甲子園決勝で、同点適時打を放ち、大活躍した佐藤君。はっとんみやぎくんと正しい110番通報をPRしました。

夢、目標を持ち将来に キャリアセミナーを開催

平成27年度キャリアセミナーは12月11日、佐沼中1年生を対象に開催されました。

これは、生徒一人一人が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択、決定する意欲などを育てることを目的に、市内を中心とした職業人を講師に迎え、市内全中学校を対象に実施しているものです。

当日は、警察官、コミュニティエフエムのパーソナリティ、コンビニエンスストア経営者など、各業種20人の講師が、その職についたきっかけ、夢や目標を持ち努力することの大切さを、それぞれの言葉で生徒たちに伝えました。



最初は硬くなっていた生徒たちも、講師の話しかけにより次第に緊張がとれ、和やかな雰囲気が進められました。